

とよなか 環境



ニュースレター

発行：NPO法人とよなか市民環境会議アジェンダ 21
 編集責任者：奥野 享
 事務局：豊中市環境情報サロン内
 〒561-0804 豊中市普根南町1-4-3
 Tel:06-6863-8792 Fax:06-6863-8734

この号のハイライト

P.1 環境展のお知らせ/P.2とよっぴー祭り/P.3自然部会/P.4企画屋バスツアー、環境とわたし/P.5生活部会/P.6事業部会/P.7環境政策室/P.8今後のスケジュール

2010年(平成22年)冬号 NO.33 (通巻第51号)

明日の地球を 一緒に考える

センチュリー交響楽団 のアンサンブル演奏も

今回も新しい展示が増えました。参加は57団体に。同時開催イベントにも次のような新企画が登場。

- ★センチュリー交響楽団アンサンブル
 - ★自転車バランス王座決定戦など。
- いずれもアクア文化ホールでおこないます。

交通の近未来が 見えて来るよう

昨年に続いて今回も電気自動車が屋外で展示されますが、試乗することもできるように2台来る予定です。

ガソリンエンジンと違って電池に蓄えられた電気でモーターを回転させて走るので静かであるのも体験できます。

新しい企画の登場 「服育」ってなに

ペットボトルから制服やユニホームが作られているのはすでによく知られていますが、それをさらに発展させた展示が出されるようです。名付けて「服育」。

どうぞ12月10、11日の環境展で新発見を。

(奥野)

とよなか市民環境展2010

ふりかえって見よう
 これまでの環境
 これからの地球

同時開催イベント

- 市民文化祭【11日】
センチュリー交響楽団のアンサンブルほか
- 自転車バランス王座決定戦
豊中チャンプ決定戦【11日】
- 中央公民館 共催事業

12/10金・11日 豊中市立市民会館

両日とも10:00~16:00

●主 催 NPO法人とよなか市民環境会議アジェンダ21
 ●共 催 とよなか市民環境会議・豊中市・豊中市教育委員会
 豊中市立中央公民館
 ●協 賛 環境省近畿地方環境事務所(予定)
 ●問合せ NPO法人とよなか市民環境会議アジェンダ21
 TEL (06)6863-8792

入場無料

豊中市環境情報サロン
 豊中市普根南町1-4-3
 阪急宝塚線「普根」駅から徒歩約300m、徒歩約4分
 本会館は最寄りのバス停「普根」の南側にあります。

入場券
 0120-234-279
 06-6863-8792 (土日祝祭日を除く)

豊中市民環境ネットワーク
 豊中市民環境会議
 豊中市立中央公民館
 豊中市立中央公民館
 TEL 06-6863-8792

家電/住宅エコポイントの環境寄付対象団体になりました

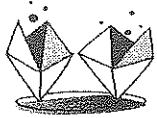
現在、省エネ家電への買い替えや省エネ住宅へのリフォームなどで国の家電エコポイント・住宅エコポイントが付与されています。こうしたエコポイントの使い道の一つとして、物品への交換以外に、環境活動を行っている団体へ寄付することもできます。

当団体では、今年の春から家電/住宅エコポイントの環境寄付対象団体となり、8月20日までに家電・住宅あわせて6,613円の寄付をいただきました。他の物品などと交換した残りの端数ポイントだけを寄付することもできます。エコポイントをお持ちの方でご協力いただけるようでしたら、どうぞよろしくお祈いします。

■家電エコポイント 環境寄付対象団体一覧

(廣田学)

<http://eco-points.jp/use/category06/index.html>



花と緑のネットワークとよなか

第5回「とよっぴー祭り」に千人の人出

去る10月16日(土)、恒例になった「とよっぴー祭り」が盛大に開催された。当日は絶好の行楽日和で、開始の1時間前から行列が続ぎ、開門と同時に人気のある「サツマイモ収穫体験の抽選申し込み」に大勢の人が並んだ。

3回にわたる実行委員会で事前準備から当日の対応まで詳細な計画が立てられたこともあり、混乱や事故もなく終了間際まで来場者が途切れなかった。

豊中産の新米による「お餅」の頒布はあっという間に完売。子どもたちを中心に行った餅つき大会も、子どもの輪が広がった。「とよっぴー」で育てた地場産野菜も好評のうち売切れ、市職員で構成する豊中市労働組合連合会の4出店(カレーライス・焼きそば・洋食焼き・芋フライ等)も昼時とあって前回より好評であった。

自転車バランス王座決定戦(自転車にどれだけ乗ってられるかタイムを競う)や慣れない手付きで、

竹を使った細工に挑戦する子どもの姿に微笑む保護者の光景が垣間見られた。また、今回はじめて「省エネルギー相談会」を実施し、相談者には「とよか」を発行。71人が相談した。



豊中市広報より「にっこり」

「サツマイモ収穫」には約300人が挑戦。昨年は虫食いもあったが、今年は小ぶりであるものの、挑戦者にはほぼ満足いただける収穫となった。親子でイモ掘りに挑む姿は家族の絆が出ていて、秋空にマッチしてほのぼのとした雰囲気を醸し出していた。

市の中心部から離れた場所にある「緑と食品のリサイクルプラザ」は普段はなかなか行けない施設。有機性資源を利活用する資源循環の場所であり、それを啓発するとともに資源を大切にすることを養う機会として「とよっぴー祭り」は定着してきたといえる。「食と循環のフェスティバル」を実感できる1日であった。(中村義世)

ミニ田圃やバケツ稲—たくさんの稲穂が実りました



花と緑のネットワークでは、緑と食品のリサイクルプラザに3年前から田圃を設けて「お米づくり」を行っています。最初は僅か6㎡のミニミニ田圃でしたが、今年は拡張してミニ田圃(12.4㎡)に昇格させ、「親子で学ぶ畑の楽校(半年5回シリーズ)」受講の親子が田植えから刈り取りまでを行いました。また、刈り取り分の稲穂二束をプレゼントし、ベランダ等に干してもらって玄米にして食べていただくよう指導したところ、「籾を二日間かけて玄米にして白米と一緒に食べました」とのご返事や「もったい

なくて食べられません」という日本に滞在中のフランス人からの感想も寄せられました。

田圃でお米づくりを始めてから現在では「籾摺り機」を購入。今年は知り合いから「脱穀機」の寄贈も受け、お米づくりのすべてが体験できるようになっています。

さらには、環境情報サロン横では近隣の保育園と連携して「バケツ稲」に挑戦する一方、小学校での菜園支援・環境教育の一環として、「バケツ稲」の取り組みを児童と一緒に行いました。小学校の一つで先日、脱穀を行うとともにお米に関する環境授業も行いました。

ミニ田圃と「バケツ稲」の中心メンバーである岸田興次さんからは「稲作文化の日本の良さが見直され、お米の需要が増える契機にでもなればと考えて始めました。僅かな面積ですが、結構感動してもらえる場となっています」と明快な答えが返ってきました。

(高島邦子)



自然部会

上野坂ビオトープ

豊中の自然は島熊山の丘陵の一部が樹林帯の状況で残されており、多くの市民の方々に愛されています。都市化された豊中の自然環境は、市と皆様方のご理解の下に、有志の方々のたゆまぬ努力により維持されています。

上野坂のビオトープも、昔の島熊山につながる雑木林や野池が点在する場所でしたが、宅地化に伴い造成され昔の環境は総て失われました。地域の方々と地権者、市とアジェンダ自然部会の方々の思いを束ね、力を合わせてゼロから人工的に作られました。現在では昆虫や鳥もよく来てくれるようになりました。嬉しいことに去年から小さな池でカルガモが子育てをするようになりました。



した。数年前よりカエルが住めるか実験をしていますが、場内の土の状態に問題があり、穴を掘って越冬することができないため定着できないことが理由の一つと解りました。

また少しずつですが市内で採取した野草の種を自宅で蒔いて苗を育てています。さらに鉢植えにして増やしており、元の場所やビオトープに移植したいと思っています。ビオトープには定着できるように部分的に土壌改良も行う必要があります。このように一度失われた環境をほんの少し再生

するにも相当の努力が必要と実感するところです。時々現地でお世話をしてみたい方、見学してみたい方は歓迎いたします。
(數本圭一)

「大阪市立大学植物園」での研修会

10月5日(火)自然部会の会員13名で、京阪の私市駅より徒歩で5分程度の所にある、大阪市立大学の植物園に研修目的で行って来ました。

入園したとき係員の方の説明では、植物園は非常

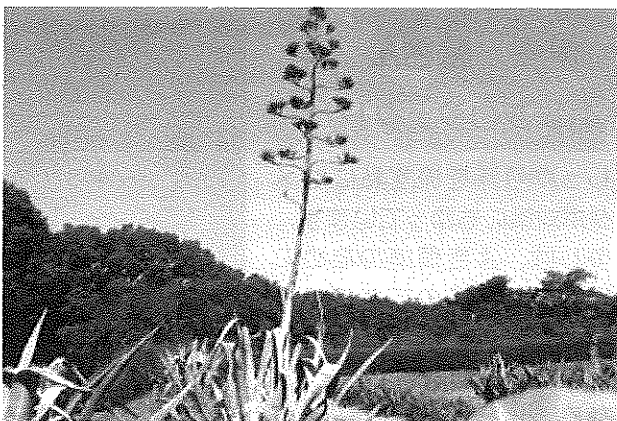
50年に一度しか咲かない、高さ7mぐらいの大きなアオノリュウゼツランが咲いていて、運がいいから見られたと思いました。そばに数株を植えていて、どれかが咲いていて、見てもらえるチャンスを増やす努力が植物園に見られました。

メタセコイアの群落があり壮観な景色でした。

また、たいへん大きな米国産セコイアの木を測ってみたら木の周囲が3.5mもありました。昼食後も多くの植物を見学しましたが、広いので全てのゾーンを回ることが出来ませんでした。植物園の出口にナンバンキセルの花が咲いていてパイプキセルによく似た紫のきれいな花が咲いていました。

(伊藤陽一郎)

アオノリュウゼツラン



に広く甲子園の約8倍の面積だそうです。

遊歩道に沿って樹木が植栽されていて、歩きながら色々な植物が見られました。

まず、大変色鮮やかで大きな熱帯と温帯スイレンに迎えられ、そのそばには変な格好をした瓢箪(蛇型)がぶら下がっていておどろきました。

環境クイズ

豊中市域では、生活環境や自然環境の保全に配慮するため、一定規模以上の開発行為を計画するにあたっては、環境影響評価(アセスメント)を実施する必要があります。では、いくら規模以上からでしょうか？

①1ha ②5ha ③10ha (こたえは8ページ)



企画屋本舗

ちょっといい豊中の飲み水を見つけに行こかバスツアー —10周年特別企画—

11月5日の特別企画、飲み水の水源へのバスツアーは、募集と同時に定員に達する大人気でした。琵琶湖の水についてどんなことが学べるか、参加者20人は

闇と同じ高さだと聞いてビックリ。その水位や水量の調節に昔は人力で100kgもある角材を洗堰で上下させていたそうです。模型でその様子を見て感心。昔の人はすごかったなあ～！

外に出て今度は雨体験。名乗り出たのは女性9人。男性には借りるカッパが小さかったからか。中にはマイ長靴を持参の女性もいた。どれほど楽しみにして来られたのかがよくわかりました。カッパ・長靴・傘を着けて、小雨の次には1時間35ミリの強雨。そして国内最大の豪雨180ミリに。さらに世界最大の1時間600ミリの超豪雨。傘をしっかりと握りしめ皆は不安顔で、水のすごさを体験しました。

それぞれ思い思いの場所でお弁当タイム。次の京都蹴上の琵琶湖疏水記念館へと向かう。明治の昔、京都で水不足が問題になり、当時の北垣知事が琵琶湖からの水を引いて飲料はもちろん水運、かんがいや防火用水、さらに水力発電で市電を走らせ、京都の街に電灯がともるようにしたという、大事業だったそうです。工学部大学生の田辺朔朗を起用した英断と、多くの人々の努力に頭が下がる思いでした。

疏水記念館を地下からでて、荷物も運んだインクラインを散策。南禅寺の水路閣へと歩きました。ひと足早い桜紅葉に心が安らぐひとときを体験。5時ジャストに豊中帰着。桜の頃にまた行きたいと話がでる素晴らしい1日でした。
(今井文子)

痛いほどの雨を体験



わくわくしながらバスに乗り込み、9時30分の定刻に出発。一路琵琶湖へと向かいました。

車中では早速講師の中村義世さんの話。「今日のこのバスは、伏見から大阪天満を往来した三十石舟に見立てて淀川の歴史と、水の話をしていきます」と中村劇場がはじまりました。

話に聴き惚れている内に、あっという間に瀬田の洗堰を渡り最初の見学地「アクア琵琶」に到着です。

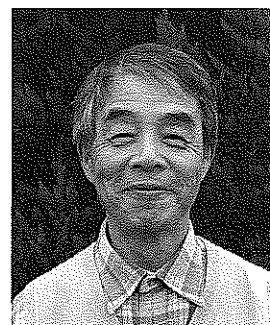
ここは琵琶湖の水の恵みや、歴史、自然などを体験しながら学習する施設。入り口からすぐの巨大な流域図の上に立ち、琵琶湖の基準水位85mが大阪城の天守

環境とわたし

《27》

伊藤 格さん

竹炭プロジェクト



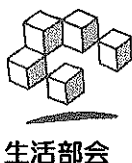
退職し、何か体にいいことしたい・・・と考えている時同業の先輩から「竹伐りに来ないか」と誘われ、次いで自然部会にも誘っていただき早3年目。活動していく中から、アジェンダの姿が見えるようになってきました。

どの活動をしていても部会の先輩方は「自然」を大切にしておられ、環境問題にも大いに関心を持たれていることが伝わってきました。竹林も間伐せずに放置しておくことでCO₂を増やすばかりか、暗い場所になり、今まで役に立っていたいろんなものが捨てられる場にもなって行きます。竹を間引き、その一部で竹炭を作り、竹炭を有効活用してもらおう。ごみを処理し、明るい気持ちのいい竹林にしていく。

しっかり汗を流す私にはメタボ対策にもなっています。少しは、よき環境のために役立っているのだとこの頃思えてきました。

また、大切な自然とあちこちで出会えるようにもなりました。一方、散歩や買い物とき、必ずマイバッグ（使った袋ですが）をポケットに忍ばせる。車は控え電車、自転車や徒歩に切り替える。ひとりの力は小さくても、大勢が取り組めば少しずつでも変えることができる。

アジェンダの活動に参加して「環境の中の私」を実感してきたこの頃です。



わいわいクラブでの 色々な挑戦

「わいわいクラブ」の呼び名で、より親しみあつき合いをと集まりはじめて3回。第1回は前号に載せた野菜の話。それに続く2回の報告です。

紅茶との上手なつきあい

11月11日の午後、花とみどりの相談所で、紅茶の老舗「ムジカ」のオーナー堀江敏樹さんと助手の坂本さんを招き、紅茶の基本、紅茶のいれ方の実技など、参加者24人とスタッフ5人は充実したお茶の時間を楽しみました。

紅茶は普通の水でお湯を沸かし、ティーポットで入れる基本を守れば、リーフでなくても、ティーバッグで上手に気楽に飲むお話には、目からうろこでした。お茶の種類や、煮出して飲むインドのチャイ、濾過法などいろいろな国でのいれ方、種類によって抽出する時間が違うなど、インスタント麺を例にとつての説明など解りやすい話でした。また、ペットボトルの紅茶と飲み比べたり、ペットボトル・缶の使



い捨てをやめ、茶殻は土に戻しましょうなどと、環境問題に触れたり、話は尽きませんでした。

セイロン茶とダージリン茶をグループごとに自分

2011年のエコライフカレンダー



来年の新しいエコライフカレンダーができあがりしました。今年も豊中の自然に目を向け、千里川周辺を主に、小鳥や昆虫などの写真が魅力的です。住宅都市にもこんな自然が残っていたのかと改めて気づかされます。

環境家計簿としても、モニター世帯人数ごとの平均使用金額の一覧表があります。家庭でのエネルギー消費について、電気ならどれくらいの消費量が基準になるか分かります。どうぞ各家庭で、エコライフの参考にしてください。

このエコライフカレンダーを使ってエネルギー消費に関心を持ち、モニターに参加される人がすでに250人になろうとしています。どうぞカレンダーとして役立てるとともに、環境家計簿のモニターとしてのご協力もお願いします。

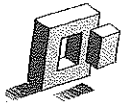
たちでいれて和気あいあいの雰囲気の中、楽しい2時間でした。お茶=CHAの効用はC（コミュニケーション）、H（ホスピタリティー）、A（アソシエーション）であることなど、分かりやすく楽しかったと大好評でした。 (宮田)

デジカメで奇蹟の1枚が!?

9月17日10時から、環境情報サロン2階で〈デジカメの基本と撮影のヒント〉をテーマに学習会を開催。講師は宮田が務めました。参加者は7人、スタッフ5人。パワーポイントを使っての説明で、ワインボトルや花を被写体に、デジタルカメラの基本、うまくなるヒント、露出のわざ、手ぶれしない

ワザなどについて、具体的に子どもや花、小物、室内、室外、記念写真、人物などの例を上げての講義。

後半は、快晴の屋外へ。各自思い思いに自分のデジカメを駆使して咲き乱れる花や虫や蝶、参加者の赤ちゃんをモデルに撮影会。最後は作品をパソコンに取り込んで、プロジェクターで写して講評。写真を見ながらわいわい。初心者からベテランまでカメラを楽しみながらの学習会でした。 (宮田)



事業部会

豊中の紙資源がトイレットペーパーに！

事業部会で4年前から取り組んでいる機密書類のリサイクルですが、9月に行った回収からは豊中商工会議所の協力も得られるようになり少しずつ広がってきています。今まで焼却処分されることが多かった機密書類を燃やさずにリサイクルしようと始まった取り組みですが、資源循環をめざしてトイレットペーパーの頒布もすることになりました。豊中から出された紙資源を利用してできているトイレットペーパーを豊中の事業所や市民に使ってらおうというものです。



うというものです。

多くの事業所や市民から持ち込まれた機密書類は大

型トラックにまとめて積み込み、西日本衛材㈱に持ち込みます。そして書類は箱詰めのまま溶かされてトイレットペーパーに生まれ変わります。大手メーカーのトイレットペーパーは再生紙が使われていないものがほとんどですが、この製品は再生紙100%です。A4サイズの内紙120枚のリサイクルでトイレットペーパー1個ができるそうです。そう考えると、機密書類も燃やしてしまうのはもったいない大切な資源です。その上、紙芯を省いた省資源タイプで、1個あたり割りばし3本分の資源が節約されているということです。よく安売りされているトイレットペーパーは1巻50mや70m程度のもが多いのですが、このトイレットペーパーは130mと長尺タイプのため、取替えの手間が少なく済みます。今後は事業所で使ってもらえる所を拡大してだけでなく、イベントなどでも頒布をして、市民の方にも豊中の紙資源循環に協力してもらえる機会を作っていく予定です。(茨木かづ子)

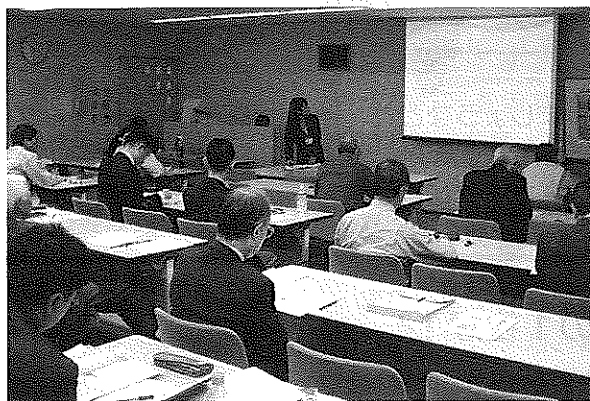
事業者も住みよい町に！

11月10日、豊中の産業・事業者への支援策と環境対策の説明会を開催。まず豊中市民生活部地域経済振興室の村井正太さんから「豊中市の産業・事業所の特徴と支援策」の話を聴きました。豊中市は住宅都市としてのイメージが強く事業所はわずかだろうと考えがちですが、意外にも事業所数は府内4番目で、もの作りの事業所が多いのも特徴。

西日本の市町村の中でも15番目で、その数は福岡市や名古屋市よりやや少ない程度だと説明がありました。

地域経済振興室では企業立地に力を入れているそうで、新たな産業の動きも期待できそうです。また、平成20年4月から「豊中市企業立地促進条例」が施行され、豊中への新規立地と、市内事業所の事業拡大・新規投資に奨励金が交付される他、環境への配慮や雇用促進にも奨励金があるそうです。事業所を建て替えるときなどはぜひ問い合わせを。

続いて環境部環境政策室の宇佐美恵子さんと藤岡撰



子さんに現在策定中の「第2次環境基本計画」の話を聴きました。①環境政策を推進するための総合的なしくみづくり、②低炭素社会づくり、③廃棄物の減量および適正処理を通じた循環型社会づくり、④都市における自然との共生をめざした社会づくり、⑤安全で快適な都市環境づくり、と5つの柱からなる計画につき、一つ一つの環境目標と具体的な施策を事業所に重点を置き説明されました。

質問タイムでは「豊中市は他市に比べて企業への支援策が乏しく、企業としてはかなり居心地が悪い。そのため他市へ移転する事業所も多い。もっと支援策を打ち出していきたい」という切実な声もありました。

事業所を大切にする施策の充実を進めていただくなど今後の政策に期待したいと思います。また市民としても、もっと事業所を応援して盛り上げて行き、市民も事業者も心地よく共存できる街にしていきたいものです。(茨木かづ子)

充実を進めていただくなど今後の政策に期待したいと思います。また市民としても、もっと事業所を応援して盛り上げて行き、市民も事業者も心地よく共存できる街にしていきたいものです。(茨木かづ子)



エコラボbus

が走ります

豊中市では、公共交通ネットワーク確保のために
交通不便地域へのコミュニティバス「エコラボバス」の運行を開始します。



「エコラボ」とは「エコ」と「コラボ」を合わせた愛称で、市民の方に愛されるバスをめざします。

運行ルート：阪急曽根駅～クリーンスポーツランド～原田南～利倉西地区

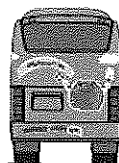
運行便数等：平日 16 便、土曜 15 便、日祝 13 便

運行時間：6 時(平日)～20 時

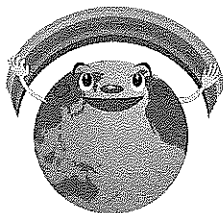
運 賃：210 円

運行開始(予定)：平成 22 年 12 月 11 日(土)

運行期間：運行開始日より平成 24 年度(平成 25 年 3 月 31 日)まで



運行を開始するにあたり、下記の日程で出発式を行います。
環境展と合わせまして、皆様のご参加お待ちしております。



☆出発式☆(予定)

日時：平成 22 年 12 月 11 日(土) 10:00-10:30





場所：アクア文化ホール前(とよなか市民環境展 2 日目)

問合せ 豊中市 環境部環境政策室 06-6858-2108

第 2 次豊中市環境基本計画(案)への意見をお寄せください。



豊中市では平成 32 年度(2020 年度)を目標に、市がめざす目標と取り組む環境施策の方向性を明らかにし、市民・事業者・行政のパートナーシップのもとに総合的に環境問題に取り組むことを目的とする「第 2 次豊中市環境基本計画」の策定を進めています。

-  意見募集期間 平成 22 年(2010 年)12 月 22 日(水)まで
-  応募できる人 市在住か在勤、在学の人、市内の事業所、納税義務者、利害関係者
-  意見提出方法 意見応募用紙に記入後、環境政策室へ持参か郵送、ファックス、電子メールで。市ホームページから専用フォームでの提出もできます。
-  計画案(案)の閲覧場所 市政情報コーナー、庄内出張所、新千里出張所、環境政策室、環境情報サロン(豊島公園内)。市ホームページでもご覧になれます。※12 月 10 日(金)～11 日(土)は「とよなか市民環境展」でもご覧いただけます。また応募用紙は上記施設の他、図書館・公民館・各文化ホール・人権まちづくりセンターなどでも配布。



問合せ・意見の提出先

豊中市環境部環境政策室 地球環境チーム(豊中市第一庁舎 5 階)

〒561-8501 豊中市中桜塚 3-1-1

電話 06-6858-2127 ファックス 06-6842-2802

HP <http://www.city.toyonaka.osaka.jp/>

メールアドレス kankyoukeikaku@city.toyonaka.osaka.jp



スケジュールのお知らせ

竹炭焼き、竹きり（12月～3月）

毎月実施します。 9時～12時
千里中央公園ほか 詳しくは事務局まで

おもちゃ病院（12月、2月）

第2土曜日 10時～12時
12月は市民会館、2月は環境情報サロン

とよっぴー有料頒布（2月～3月）

第2土曜日&第4水曜日 10時～11時
緑と食品のリサイクルプラザ
12月、1月の頒布は休みます。

地産地消イベント（12月～3月）

第2水曜日 10時～12時
くらしかん生活情報ひろば
竹炭・竹酢液、とよっぴーで育てた野菜頒布

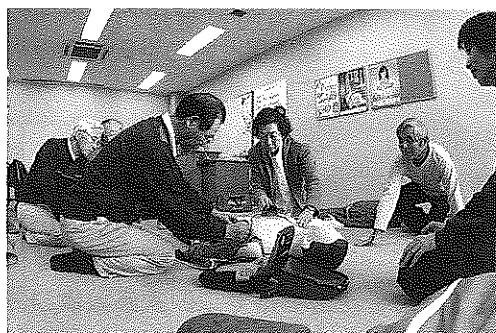
エコライフカレンダーできました

12月10日から配布します
事務局、図書館、環境政策室ほかにあります

◆◆ 応急救護講習会 ◆◆

11月16日（火）と17日（水）に、団体会員である豊中自動車教習所の全面的な協力を得て、豊中自動車教習所にて会員向けの応急救護講習会を行いました。こうした講習会は当団体として初めてで、各部会・プロジェクトの中心メンバーや事務局など11人が参加しました。

今年1月に豊中市は「救命力世界一」を宣言し、市内でも多くの普通救命講習が行われていますが、当団体でもたくさんの行事に市民が参加することから、いざという時のために独自に講習会を開催することとなりました。今回は教習所での応急救護講習を抜粋した内容で、参加者からは「確認しておけてよかった」などと好評でした。今後も機会があれば、開催を検討していきたいと思えます。（廣田学）



編集室から

▼千里川のブロックの擁壁の上に着生したナンキンハゼが、太さ20センチほどに大きくなり、擁壁を傷めるからというので土木事務所が根元から伐り倒した。そこまではよく解かるのだが、その伐り口にめった切りの鋸の傷が付けられている。故意にやったとしか思えない。何のために？と気になる。顔に滅多切りの傷が付けられたよう。おぞましい。（Z）

▼彼岸に六甲山へ森林浴に行きました。六甲山頂⇒有馬温泉、紅葉谷コース。木の香りを浴び、鳥のさえずりを聞きながら、森林の山道をウオークしました。この気分は正に心の洗濯。素晴らしかった！皆さん出掛

けてみませんか。（S）

▼上新田天神社を北に進むと竹林に入ります。ここは豊中百景にも選ばれた所で林内は静寂で多様な小動物や植物が共存しています。先日植物調査に行くとき多くの竹は伐られ土地は掘りかえされ、もとの竹林の面影はありませんでした。住民が丹精込めて保全した場所が消えてしまうのには心が痛みます。（H）

▼世界で一番トマトが好きな私。最近では、加工食品も洋菓子からお酒に至るまで幅広い味を楽しむことができる上に、栄養価は高く、値段は安い。イタリアの物産展にふらっと立ち寄っては、珍しいトマト料理に夢とお腹を膨らませています。（M）

環境クイズの答 ① 1ha（高さ60m以上の建築物は1ha未満も）。「豊中市環境の保全等の推進に関する条例施行規則」で定められており、それ以上の規模の開発は環境影響評価の手続きを完了しなければ実施できません。

《広報チーム》

Z奥野、H岡、S猪尾、Y小村、M森山、P大村

<http://toyonaka-agenda21.jp/>

Eメール ecoshimin@kmd.biglobe.ne.jp